

自治体名	鹿児島市
------	------

女性の健康づくり対策の概要

市民の健康を保持増進していく施策については、これまでも、保健所と10箇所の保健センター・保健福祉課を中心に健康相談や健康教育等を実施してきた。しかしながら、母子保健対策、健康増進対策、疾病予防対策等、それぞれの部署では、取り組んではいないものの、事業の連続性や課題に応じた施策がなされていたか等の課題があり、今回の事業を通じて、年代別の健康課題は何か、どのような事業展開が有効なのかを分析していくことは、非常に重要である。

鹿児島市では、女性特有のがんや生活習慣病の予防など、女性の健康に関わるさまざまな情報提供を、市民、それぞれの年代を取り巻く関係機関等と連携して行い、どのような手法が効果的なのか検証しながら、事業展開を図る。

自治体の特徴

鹿児島市は、九州の南端鹿児島県本土のほぼ中央部にあって、東側は鹿児島湾に面し、海を隔てた桜島を含んだ東西約33km、南北約51kmの都市である。平成16年には、周辺地域5町と合併し、人口60万人の県都として、また、日本の南の拠点都市として発展している。

人口構成（H21.9.末現在）

	総数	男	女
人	603,976	281,503	322,473
割合(%)	100%	47%	53%

15歳未満	86,130	43,975	42,155
15～64歳	392,988	187,034	205,954
65歳以上	124,858	50,494	74,364
75歳以上	62,281	22,061	40,220
85歳以上	16,887	4,372	12,515

女性に関する健康課題

平成18年度に行われた「かごしま市民健康55プラン中間評価のためのアンケート調査」によると、男女ともに主体的な健康度は、高齢になるほど、低下している傾向にある。また、20～30歳代の前半で約2割の人が欠食している傾向にあり、同年代の女性のやせが増加傾向にある。20歳代の女性のやせについては、国、県と比べても高い。一方、肥満の割合については、30歳代～50歳代女性で増加傾向にある。また、運動習慣者（1回30分以上の運動を週2回以上実施し、1年以上継続している人）の割合が、成人女性において減少傾向である。

平成20年度に策定された保健医療計画によると、乳がんの標準化死亡比が、105.4で、全国、県全体と比較して高くなっている。また、糖尿病の標準化死亡比は、116.1、腎不全の標準化死亡比が131.1で、全国、県全体と比較して突出して高くなっている。平成20年度の子宮がん検診の受診率は、20.9%、乳がん検診の受診率は、8.8%と低い状況にある。

事業費（千円）

(1) 思春期から30歳代における健康支援事業	5,013
(2) 中高年期における健康支援事業	69
(3) 女性のがん健康支援事業	5,125
計	10,207

(1) 思春期から30歳代における健康支援事業

事業名	レディースノート（女性の健康手帳）作成・配布事業
分野	<input type="checkbox"/> 健康教育 <input checked="" type="checkbox"/> 健康手帳の交付 <input type="checkbox"/> 健康相談
事業費（千円）	502千円

事業目的

女性の健康に関わる特に重要な知識や基本的な生活習慣等を理解することを目的として、月経周期や妊娠・出産、適切な栄養摂取や身体活動の重要性、「やせすぎ」による健康リスク等の女性の健康づくりに関する情報を内容とする健康手帳を作成し、健康相談等で配布する。

事業対象

15歳以上（思春期）～中高年期の女性市民。特に若年層を中心に配布。

事業実施体制・展開

- ①レディースノートの作成について、企画・評価委員会で事業対象、目標等の概要を、庁内検討委員会で項目・内容等の詳細について検討する。検討委員会で項目毎に担当する部署を決め、各保健センターが中心となり、保健師、栄養士等が協力しながら作成し、最終的な記載内容については、再度、検討委員会で検討・決定する。
- ②事業目標に基づく配布計画をたて、事業対象者への効率的な配布のため、手帳の広報、配布協力について、各保健センター、教育機関等へ働きかける。

事業目標・評価項目 及び その結果

- ①作成部数 50,000部
- ②主な配布場所：各保健センター・保健福祉課へ27,000部、県立短大・鹿児島女子短大・純心女子短大・鹿児島大学医学部保健学科へ3,000部、鹿児島大学へ3,500部、開業助産師・療育関係機関・給食従事者・健康保険組合連合会・交通局・水道局等3,000部
- ③アンケート レディースノートの役立ち度 役立つ（491/525人）
- ④アンケート 知りたい内容・情報の掲載 掲載あり（487/525人）
- ⑤アンケート 健康づくり情報の中で参考になった項目【多い順】
女性が気をつけたい症状・病気（55.0%）、冷えを和らげるツボ知識（43.4%）、ツボ刺激について（41.0%）、
乳がん自己検診法（39.4%）、足のむくみ（39.2%）

事業の工夫点

健康づくりの情報提供の方法は、さまざまであるが、対象とする受け手に効果的に伝える必要があるため、どのようにしたら、情報を受け取ってもらえるのか、手帳のサイズ、内容等検討した。配布方法については、説明を加え、その目的を理解してもらった上で配布するようにした。手帳の存在を対象者の多くの方に知ってもらえるよう、学域・職域等の連携ができそうなところから PR を行った。1つの健康保険組合から、他の職域への紹介もあり、手帳を通しての他機関との連携が、深まった。

事業の効果についての評価・考察

企画評価委員会において女性の健康づくりという観点から本事業の効果を検討した。

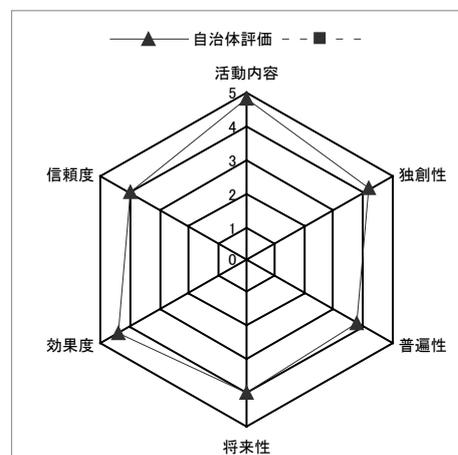
- ①作成段階で、若い世代の意見を反映した結果、若い世代から好評を得たことは、評価できる。
- ②5万部作成し、配布計画に基づき4万部配布済みとのことで、順調な啓発活動を行っているので、女性の健康に関する啓発活動が期待できる。
- ③市の保健所が作成した冊子という信頼性と、住んでいる地域で活用できる詳細な情報の提供、若い世代の興味を引く楽しさを組み合わせたことで、配布対象者の地域性、年代層に的を絞ったのアピールに成功したと感じる。
- ④アンケートの結果からも役立ち度 93.5%、知りたい内容・情報の掲載あり 92.8%で、ノートを受け取った大半の方が満足されており、大変好評であった。
- ⑤健康情報の中でも、乳がんの自己検診法などのセルフケアに関することに関心が高いようである。
- ⑥情報過多の現状で、より正しい、有効な情報、知識をより興味・関心を持ってもらうために、ツールを作成することは効果的だと考える。

今後の課題

手帳配布について、より多くの人に知っていただき、活用していただけるよう、PRが必要である。若い世代、主婦層、中高年向けなどそれぞれ対象者を想定した広報を考える。また、市医師会の協力が得られれば、産婦人科（STDで受診した患者など）や思春期外来・女性外来のある病院で、受診者に配布できるよう、医療機関との連携については、検討が必要である。

ホームページ	http://www.city.kagoshima.lg.jp/
照会先	鹿児島市保健所 保健予防課 保健予防係 (099-258-2321)

事業評価	(企画評価委員会で評価)	
①活動内容	4.8	明確な配布計画をたて、多方面への啓発を積極的に実施している。
②独創性	4.2	実用という効果にこだわり、これまでの市の発行物には、あまりないスタイルを起用している。
③普遍性	3.8	いずれの自治体でも実施可能である。
④将来性	4.0	時代に即応した内容にするため、情報収集など努力が必要である。
⑤効果度	4.4	幅広い啓発が実施できている。自分自身の健康について考えるよききっかけになっており、効果が期待できる。
⑥信頼度	4.0	作成段階にもう少し時間をかけ、多職種からの意見収集、また配布期間、配布数を増やし利用者の意見収集が必要。



(1) 思春期から30歳代における健康支援事業

事業名	短大等学園祭キャンペーン		
分野	<input checked="" type="checkbox"/> 健康教育	<input type="checkbox"/> 健康手帳の交付	<input checked="" type="checkbox"/> 健康相談
事業費(千円)	437千円		

事業目的

主体的に自らの健康に目を向けることができるよう、的確な情報提供を行うための健康体験ができるブースを設置し、パネル展示やパンフレット配布、アルコールパッチテスト等の実施、食事モデルの提示、乳がんの自己検診法の健康教育等を行う。

事業対象

鹿児島市内の短大学園祭に参加している短大生、ならびにその保護者等

事業実施体制・展開

- ① 学校側に事業目的を説明し、学園祭でのブース設置等キャンペーンの実施について働きかける。
- ② 学校側と協議を行い、実施内容について、検討する。
- ③ キャンペーンの設定及び運営
- ④ 実施後、アンケート調査の実施及び学校教育での情報提供等について、学校側と連携

事業目標・評価項目 及び その結果

- ① 市内4つの短大で実施を計画し、全て許可をもらったが、1校は、新型インフルエンザ発生のため中止し、3校で実施した。
- ② 実施内容：学園祭での健康相談実施数 540人、健康教育実施数 590人、骨密度測定実施 322人
- ③ アンケート：学園祭キャンペーン参加者へ実施。結果は以下のとおり
 - ア. 健康づくり体験ブースについて たいへん有益、まあ有益 (145/151人)
 - イ. 健康づくりに関心を持たたかどうか 持てた (145/151人)
 - ウ. 健康づくりについて見直していきたいもの
 1. 食習慣 (80.8%) 2. 運動習慣 (69.5%) 3. がん自己検診 (20.5%)

事業の工夫点

学園祭のパンフレットにも案内を入れていただくなどの、学校側の配慮があり、事業の実施まで、スムーズに運んだ。学校側、学生側も協力的であり、事業の実施が容易であった。事前の打ち合わせの段階で、学校側も、学生への支援という観点で、このようなイベントへの参加は望んでいるようであった。自宅からの通学生もいるが、一人暮らしの学生も多いので、自らの健康管理に関心が持てるよう、数値で表すものや、検診制度の仕組み、フードモデルを活用した食事指導など視覚的に訴えられるよう内容の工夫を行った。

事業の効果についての評価・考察

企画評価委員会において女性の健康づくりという観点から本事業について検討した。

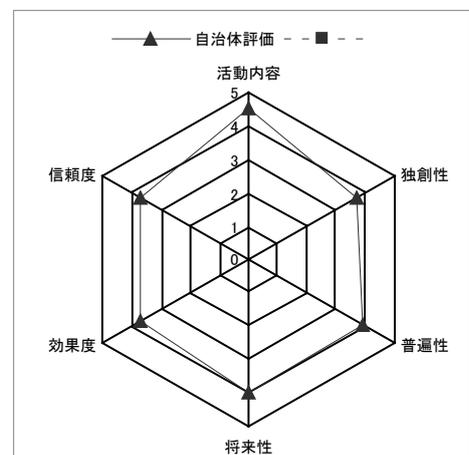
- ①交渉した学校全てに実施許可をもらえたことは、今後学校との連携のとりに良い影響を及ぼすことが期待される。
- ②学園祭は、学校内のイベントでも特に外に開かれた催しであり、出張授業などとはまた違ったアプローチができる。生徒だけではなく、保護者等を含めた多くの事業参加が可能である。
- ③若年層が多く集まるイベントへのアプローチは、とても有効だと考える。
- ④「短大生」という若年層にターゲットを絞り、健康に関するパネル展示やパンフレットの配布など実施することで若い世代のうちから健康について啓発することができた。また乳がん検診受診率が伸び悩む中、行政や民間をあげて啓発しているが、若年層の意識を変えることは困難である。今回のように若年の世代に乳がんの自己検診法を教授することで、若いうちから検診への意識を向上させるきっかけを作ることができた。

今後の課題

今後は、若年層のその他（4年生大学生、専門学校生、働いている若年層）にも広くキャンペーンしていくことが課題である。また、イベント企画の学生を巻き込み、活動に参加してもらうなどの事業の工夫をしていくことで、大きな効果が得られる可能性がある。

ホームページ	http://www.city.kagoshima.lg.jp/
照会先	鹿児島市保健所 保健予防課 保健予防係 099-258-2321

事業評価	(企画評価委員会で評価)	
①活動内容	4.5	生活習慣病や乳がん自己検診法など、若い世代から取り組むきっかけとなった。
②独創性	3.7	ターゲットの年代にダイレクトにアタックできる。
③普遍性	3.9	受け入れ側が了解すれば、広く利用できる。教育現場への足がかりとなった。
④将来性	4.0	継続実施ができると、広がりが出てくると思われる。
⑤効果度	3.7	健康づくりの情報を普及させるには、効果的な活動である。
⑥信頼度	3.7	保健所が自ら出向いて行える点は、信頼性が高い。



(2) 中高年期における健康支援事業

事業名	いい女の更年期セミナー「女、40歳からのからだところ」			
分野	<input type="checkbox"/> 知識の提供	<input type="checkbox"/> 健康相談	<input type="checkbox"/> 情報提供	<input checked="" type="checkbox"/> 健康教育
事業費(千円)	69千円			

事業目的

更年期の女性に多い健康上の悩みや問題に対処する知識の提供や、利用可能なサービス等の情報提供を行い、適切な保健行動がとれるよう支援する。また、毎回グループワーク等を実施し、参加者同士が互いに悩みを共有し、エンパワーメントできるよう支援する。

事業対象

概ね40歳代から、50歳代の女性の更年期に関心のある女性市民

事業実施体制・展開

- ①市の広報誌で参加者を募集する。
- ②全市で1か所、4回シリーズで実施する。
- ③内容：
 - 1日目「心の健康」 講話：精神科医師
 - 2日目「からだの健康」 講話：婦人科医師
 - 3日目「元気になる食事として」 講話：管理栄養士
 - 4日目「肌をすこやかに保つために」 講話：皮膚科医師

それぞれでグループワーク実施する。
- ④参加者の更年期の状況に合わせて、個別相談実施する。
- ⑤グループワークは、毎回のテーマにあわせ、ハンドマッサージや、骨密度測定、調理実習、肌水分量チェックなどを行う。

事業目標・評価項目 及び その結果

- ①アンケート：セミナー参加者へ実施。結果は以下のとおり
 - ア. セミナー開催を何で知ったか。
 1. 市広報誌(14人/26人) 2. 保健センター等の健康相談(10人/26人) 3. ポスター・チラシ(2人/26人)
 - イ. 4回の受講内容の満足度(5段階評価)
 - (第1回) ころの健康：1. 非常に満足(24人/26人) 2. やや満足(2人/26人)
 - (第2回) からだの健康：1. 非常に満足(22人/26人) 2. やや満足(4人/26人)
 - (第3回) 元気になる食事：非常に満足(24人/24人)
 - (第4回) 肌をすこやかに保つために：非常に満足(25人/25人)
 - ウ. グループワーク活動の満足度：非常に満足(26人/26人)

事業の工夫点

情報提供のみでなく、参加者同志の交流を図り、お互いがピアカウンセリングとなってエンパワーメントできるよう支援した。加齢に伴う皮膚の変化等、皮膚科医師の話も好評であった。更年期の症状もさまざまであり、なかなか症状のない人には理解されず、苦しんでいる状況が見受けられた。セミナー終了後、受講生同士で定期的な集まりを開くことへ発展した。

事業の効果についての評価・考察

企画評価委員会において、女性の健康づくりという観点から本事業の効果について検討した。

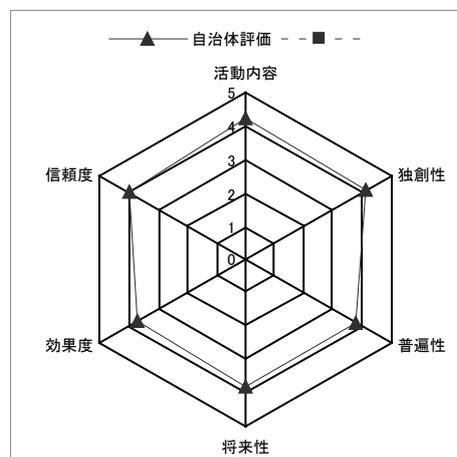
- ①更年期セミナーでは、専門家の意見を参考にするだけでなく、参加者同志の交流を図ることで、短期的な集まりではなく、その後の交流の可能性も広げること成功している。
- ②座学だけでなく、グループワークを取り入れ、受講者が参加しやすいカリキュラムを工夫している。また、セミナー終了後の展開もあり、市民への理解を深める効果が期待できる。
- ③同世代の人たちで意見を出したり、場を共有することは、実質的知識を身につける以上に、精神的な支援として有益である。

今後の課題

セミナー開催については、内容、回数等について適宜見直しを行い、継続的に実施していくとともに、他の保健事業のセミナー等に、これらのテーマを組み入れていくなどして、他事業と連携させ、相乗効果を発揮するように取り組む必要がある。

ホームページ	http://www.city.kagoshima.lg.jp/
照会先	鹿児島市保健所 保健予防課 保健予防係 (099-258-2321)

事業評価	(企画評価委員会で評価)	
①活動内容	4.2	短期だが、セミナーを4つのシリーズに分け、それぞれの専門家を招くなど不足のない内容である。
②独創性	4.1	専門家の支援だけでなく、参加者同志のピアカウンセリングなど、貴重な体験を作ることができる。
③普遍性	3.8	広く実施できる事業である。
④将来性	3.8	今後もシリーズ化していくなど、発展していける事業である。
⑤効果度	3.7	個別相談も実施。参加者の交流が図られ、今後につながる会に発展したことは、一定の効果があったと考えられる。
⑥信頼度	4.0	それぞれの専門家の協力が得られて、信頼度は高い。



(3) 女性のがん健康支援事業

事業名	かごしま市女性の健康支援フォーラム ～貴女の健康づくりを応援します～		
分野	■啓発活動	■健康教育	■健康相談
事業費（千円）	1,992 千円		

事業目的

女性の健康づくりイベントとして、講演会や健康相談、子宮がん・乳がんのセット検診ができる複合的なイベントを開催し、子宮がん・乳がんの必要性や健康づくりの大切さを普及する。

女性の健康を支援する職能団体やがん患者会等関係機関が一同に集まり、連携して事業を実施する。

事業対象

鹿児島市の住む概ね 20 歳以上の女性

事業実施体制・展開

- ① 講演会は、「いつまでも輝き続けるために」と題して、女優の 愛華みれさん（鹿児島県出身者）に依頼。悪性リンパ腫の闘病生活を経ての健康づくりの大切さ等の講演を実施。
- ② 子宮がん・乳がん検診を併設（事前申込み）、受診券を当日持参していない方についても、受診資格の確認をしたうえ、当日申込みも可能とする。
- ③ 検診の大切さと生きることの素晴らしさをテーマにした映画「余命 1 ヶ月の花嫁」を上映。
- ④ 健康づくり体験コーナーでは、骨密度測定、血圧測定等の健康相談や健康教育を実施。
- ⑤ がん患者会の協力を得て、相談コーナーを設ける。

事業目標・評価項目 及び その結果

- ①参加者：700 人（託児申込み 21 人中、16 人実施）
（子宮がん検診 50 人、乳がん検診 62 人）
- ②アンケート：セミナー参加者へ実施。結果は以下のとおり
 - ア. 講演会の期待度 期待どおりだった（92/98 人）
 - イ. 映画をみての検診への受診意欲 意欲あり（124/142 人）
 - ウ. 参加へのきっかけ
 1. 保健センター等の広報（57.2%）
 2. 知人から（26.3%）
 3. ポスター・チラシ（22.4%）
 - エ. 健康づくり体験コーナーで、特に健康づくりに役立ったと思う内容 【多い順】
 1. 元気メニューの実演・試食（30.6%）
 2. 骨密度測定（22.6%）
 3. フードモデルによるコンピューター食事診断（16.9%）

事業の工夫点

このイベントを実施するにあたり、関係機関と連携して行った。行政だけでなく、民間企業や職能団体等と役割分担して実施。また、事業の広報をするにあたり、広報の手段を模索しながら、行った。商工会議所や通り会、マスメディア、学校関係等へ広報を行ったが、準備時間が短く、十分に実施できなかった。

事業の効果についての評価・考察

企画評価委員会において女性の健康づくりという観点から本事業の効果について検討した。

- ①アンケート結果より、がん体験者の講演会で、がんになっても前向きに、希望をもって生きていくことを多くの来場者に伝えることができたと言える。
- ②当日申込みの乳がん検診、子宮がん検診にも対応でき、イベントに参加した方が、検診を受けることの大切さと、検診は気軽に受けることができることを、アピールできたといえる。
- ③骨密度測定など個別に健康に関する検査を実施、健康への意識向上につながった。
- ④がんになった来場者のためのがん患者会のブースを設けるなど、がんの予防だけでなく、患者・家族へもサポートすることができ、充実した内容といえる。
- ⑤講演・映画上映とセットで、健康相談・がん検診など複合的なイベントにしたことで、幅広い世代から多くの参加があり、今後の意識啓発への波及効果が期待できる。

今後の課題

- ①準備期間、広報期間が不足し、会場を押さえることが難しい状況であったので、集客をするためには、この点を改善する。
- ②民間のイベント会社等とのタイアップをして、とにかく足を運んでもらう工夫をする。
- ③予算を伴うため、このような事業を実施できない可能性があるため、既存の事業等の充実を図る必要がある。

ホームページ	http://www.city.kagoshima.lg.jp/
照会先	鹿児島市保健所 保健予防課 保健予防係 099-258-2321

事業評価	(企画評価委員会で評価)	
①活動内容	4.6	行政だけではなく、幅広い機関と連携をとって事業を行い、準備期間が短かったが、多数の参加者を得ている。
②独創性	4.1	様々な分野のブースの出展もあり、独創性に富んでいた。
③普遍性	3.9	費用の面に、左右される。自治体の希望によるが、その手法は利用可能。
④将来性	3.8	がん検診など、数年後の実績を考えると期待できる。
⑤効果度	4.0	多数の来場者もあり、評価できる。
⑥信頼度	4.0	関係団体も信頼できる団体である。

